

平成 30 年度 第 2 回伊那谷自治体会議（概要）

■日時

平成 31 年 3 月 11 日（月） 13:30～15:00

■場所

飯田合同庁舎講堂（知事室とつないだウェブ会議）

■協議事項

- (1) リニア関連地域振興策の取組実施体制について
- (2) リニア駅近郊エリアのまちづくり構想の策定について
- (3) 伊那谷自治体会議への木曾地域の参画について

■主な意見等

(1) リニア関連地域振興策の取組実施体制について

【出席者】

- ・新たに組織をつくるより、民間を含めて既存の組織を活かす方がいい。その上で、全体のまとめ、方向性、進捗管理などの舵取りを自治体会議で行っていくことが望ましい。
- ・県と市町村が一緒に考えていくことが必要であり、地方創生推進交付金を活用し、二次交通等をテーマとして、県と市町村の共同で事業を進めたいかがか。
- ・プロジェクトの内、二次交通や大都市圏との交流などについては、個別よりも全体で進めた方がいい。早めに民間と連携した組織を立ち上げて検討することで、各市町村が取り組むべき課題も見えてくるのではないか。
- ・プロジェクトを早く立ち上げ、既存の組織の活動との関わりを整理しながら進めていけばいい。
- ・民間と連携して早く事業を進めるのであれば、県が取りまとめをしながら、常勤スタッフを設置した事務局体制が必要。
- ・プロジェクトリーダーにどの程度の役割を持ってもらうか、全体をどのようにマネジメントしていくかが大事。
- ・既存の組織との関係性を明らかにした上で新組織を固めていくことが重要。

【阿部知事】

- ・県として早急に体制をつくりたいと思うが、市町村の皆さんにも体制整備にご協力をお願いしたい。
- ・問題意識を県と市町村でしっかり共有して、具体的な工程表を作成し、進捗管理をしていかないといけない。
- ・テーマによって、国の補助金は積極的に活用した方がいいし、誰が財源負担をするかをしっかり考えていくことが必要。
- ・既存団体との連携にあたり、必ずしも組織を一体化するのではなく、問題意識と方向性、実行すべきことを共有した上で、共に取り組むこともあり得ると考えている。

(2) リニア駅近郊エリアのまちづくり構想の策定について

【出席者】

- ・駒ヶ根市も学術研究機関の誘致を目指している。広い土地はないが水の豊富さを活かして取り組みたいと考えているが、なぜ飯田市と周辺町村だけでやるのか分からない。
- ・高速を使えばリニア駅から伊那市まで30～40分であり、知的対流拠点の「核」が飯田市及び近郊でなくてもよいのではないか。
- ・伊那市には信州大学の農学部もあり、食と農の取組を進めているし、他市町村が進めている産業等もあるので、そうしたものも配慮して進めてもらいたい。
- ・リニア駅近郊のまちづくりは、今後必ず考えないといけない話。エリアは色々な議論はあると思うが、県が音頭を取ってやってもらうことは必要。
- ・信州大学や食の産業等、上伊那地域の取組も含めて広域的にメリットが出るような仕組みにしてほしい。

【阿部知事】

- ・この事業は、リニア駅が飯田市の中心でなく周辺町村に近い立地であることを活かし、一体として駅周辺の面的整備に取り組みたいというもの。資料の内容がややミスリードになってしまっているが、リニアバレー構想をこのエリアだけで実現しようという話ではないことはご理解いただきたい。
- ・土地利用についても、伊那谷全体を視野に入れながら配置を考えていく。

(3) 伊那谷自治体会議への木曾地域の参画について

【出席者】

- ・大賛成。岐阜県駅も意識した地域振興が必要。

(以上)